

# 庁議の概要

開催日：H16.12.1

## 項目

- 1 知事あいさつ
- 2 その他

## 内容

- 1 知事あいさつ

### 【内容】

庁議メンバーの皆さん方には、急な辞職と出直しということで大変ご心配もかけたと思いますし、また大変なご苦労をかけたと思います。この間、職務代理者を務めていただいた副知事をはじめ幹部の皆様方大変なご努力、また職員の皆様の努力で、この空白の期間を十分埋めて頂いたことに心から感謝を申し上げたいと思います。

特にこの間、台風23号の被害、等々の緊急の課題もございましたし、また現在も動き続けています、三位一体の改革への対応など大きな課題があった時期ですので、私自身も席を空けていたことを大変心苦しく思っていますけれども、改めてこの空白を埋めてきていただいた皆さんのご協力というかご努力に心から感謝を申し上げたいと思います。

で、選挙の最終日に特に訴えの中でも申し上げましたけれども、この13年間続けてきた県政改革、例えば一部の利益、特定の力をもった人の声に流されるのではなくて、お一人お一人の県民の皆さんの声に耳を傾けて、県民の皆さんに向き合った県民本位の県政を進める、こういう流れは、私一人で作ったわけではありません。やはり多くの職員の皆さんがそのことに理解を示してくださって、大きな流れになってきたと思います。

そのことがそれぞれの職場職場で不当な、というところちょっと言い過ぎかも知れませんが、いろんな働きかけ、圧力というものを毅然とはねのけるという現実にもあらわれていますし、また一方では、どの分野でもお一人お一人のいろんな立場の方に耳を傾けて政策を考えていく、それぞれの事業への対応を考えていく、という大きな流れが出来ていると思います。

今回の結果を通じてこうした意味での県政改革の流れというのは大きなご支持を頂いたわけですので、そのことに私自身もですけど、職員の皆さんも自信を持って更に、こうした県民本意の県政ということ強い流れにしていって頂きたいということを思います。

また、今も続いております三位一体の改革は言うまでもなく、これからの高知県の将来にも大きな影響を与えます。特に地方交付税の削減の方向というものが止められないということになりますと、今年度で520億円（一般財源ベース）の裁量的な経費がほとんど捻出できなくなる。つまり、県独自の仕事がほとんど出来なくなるということになります。これは財務省案であろうが、自由民主党案として言われるものであろうが、7～8兆円か2兆円かに関わりなく、こういう傾向が続いていけばそうなります。

選挙中も使った表現ですけれども、企業に例えればまさに倒産、破産というような状況にもなっています。このことに対して、当然私が先頭に立って立ち向かい、反論もしていかなければいけませんけれども、幹部の皆様方も是非、一人一人の職員の皆さんにこういう危機と言うことを一つは改めてお

伝えをいただいて、一人一人の職員の皆さんがこの問題を自分のものとして考えていただくことを進めていただけたらと思います。

さりとて、国も地方もこれだけの借金を抱えていますので、支出の見直しということは避けて通れない課題でございます。併せて、三位一体のもう一つというか、もう二つという大きな柱でございます補助金を削減して地方の自由度を増していく、という流れ、これも項目だけがずらずらと掲げられているだけで17年度18年度の割り振りも、また、その内容も、つまり、実際に税源移譲になるのか、交付金になるのか、ただの削減かというようなことも一切わからないままでございます。

そういう中で予算編成をするということは去年以上にそれぞれの部局に大変なご苦労、と言うよりは困難さのつきまとう予算編成になると思いますけれど、情報収集はもちろんですし、今申し上げたようなことを背景に、皆さんが一体となって、力を合わせて是非こういう困難な状況を、少しでも、乗り切る力を出していければなど、そこに県庁の一体感が問われている、正念場ではないかということ 생각합니다。

もう一つ、今回の出直しの背景に、例えば議会との摩擦、きしみということがあったことは事実でございますし、私もそのことはそのこととして重く受け止めておりますので、自分自身も少しでもそういうきしみというものを少なくしていくために努力をしていきたいと思っておりますし、また、幹部職員の皆様方には、そういう面でのお力を貸していただければなと思っております。

また、その一方で今回の出直しのいろんな取り組みを通じてまして、民間の方、これは経済界の方もいれば他の分野の方もおられますけれども、そういう方からももっと県が一体感を持って仕事ができるように、つまり、是々非々はもちろんいいんですけども、是の部分をもっと前に、みんなが力を合わせて進んでいけるような、そういう応援というか、いろんな支えもしていきたいというお声も頂いて非常に心強く思っています。

何を言いたいかと言いますと、そういう意味で広がりを持った動きにしていけないと、出直しが単に、一年経って出直ただけで終わってしまえば何にもならないと思っておりますので、そういう皆さん方とも力を寄せ合って現在のいろんな問題点を克服し、少しでも県の仕事が前に進むように私自身も努力をしていきたいと思っておりますので、これからは是非そういう視点で一緒になって仕事をしていって頂きたいと、また更に力を貸していただきたいということをお思いますので、そのことを申し上げて新たな一歩の、庁議のご挨拶といたします。よろしく申し上げます。

## 2 その他

三位一体の改革について【総務部長】

- ・12月6日の週に総務大臣と6団体の代表との会合がある。
- ・12月14日に全国知事会議が開催される。
- ・12月18日に大臣折衝があり地方交付税の概要が決まる。
- ・現在のところ、補助金見直しリストに関して、  
17年度、18年度のどちらでの見直しとなるか。  
何をどうするのか。  
税源移譲、交付金、単なるカットなのか。  
国の規制がどうなるのか。

と、いったところが何もわかっていない。国の説明を待っていてもらちがあかないので各部局では国を突っついて情報を取り出して欲しい。

- ・補助金をカットして財源措置がない場合は、場合によっては国に物申すので情報を寄せて欲しい。
- ・治山事業については、削減対象となっているだけでどうなるかがわかっていない。大変心配している。

【森林局長】

- ・12/6に県の予算要求概要の公表、12/8に市町村関連の補助金等に関して助役会を開催する。その際の資料を見ると、市町村の根幹を支える事業も大幅に削減となっているものが見受けられる。市町村の意見も良く聴いて、県として説得力のある答を考えなければ、これで決定ではないということをして市町村には話して欲しい。また、全体最適とは何かということ部局長レベルで話し合う（例えば中山間対策本部）ことも必要ではないか。【企画振興部長】

予算査定に限られた時間内に、中山間対策本部の決定を得てないといけないということになると非常に編成作業が困難となる。必要があれば、関係部局長との議論や庁議での議論という方法も考えられる。

市町村との関連で、心配をしている具体的な事例を挙げて聞かせて欲しい。【知事】